

令和 7 年度病虫害発生予察予報第 10 号(令和 8 年 1 月)

令和 8 年 1 月 7 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作 物 名	病 害 虫 名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央、西) <u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、平年並(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東)</u> 、少(中央、西) 平年並(中央、西)、少(東) やや少(西)、少(東、中央) 少(県下全域) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(県下全域) <u>多(東)</u> 、平年並(中央、中西) <u>多(東、中央)</u> 、少(中西) 平年並(中央)、少(東、中西) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東、中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	平年並(中央) やや少(中央) <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台1月1日発表)

1月3日から2月2日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。向こう1か月の天候は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	30	40	30
		降水量	50	30	20
		日照時間	20	40	40

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	30	50	20
2週目		30	50	20
3～4週目		30	40	30

<予報の対象期間>

1か月：1月3日(土)～2月2日(月)

1週目：1月3日(土)～1月9日(金)

2週目：1月10日(土)～1月16日(金)

3～4週目：1月17日(土)～1月30日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：やや多(中西部)、平年並(中央部、西部)

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部でやや多く、中央部、西部で平年並であった。発病程度は中央部で高く、中西部、西部で平年以下であった。

(2) 例年、いずれの地域においても厳寒期の病勢進展は少ない。

(3) 本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。1月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は西部では平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 例年、12月は中西部では発生が増加し、中央部、西部では12月と同程度の発生が見られる傾向にある。
- (3) 1月の降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から中西部では発生が増加し、中央部、西部では現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりやや多く、中央部で平年並、西部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 例年、いずれの地域も1月には既感染株の発病が続く傾向にあることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

4) 退緑黄化病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より多かった。発病程度は、中央部、中西部で平年よりも高く、西部で低かった。
- (2) 例年、中央部では1月には既感染株の発病が続き、発生が増加する傾向にある。中西部、西部ではわずかに発生がみられる程度である。これらのことから、中央部では発生が増加し、中西部、西部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部)、やや少(中央部)、少(西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、中央部で平年より少なかった。発生程度は、両地域とも平年以下であった。

- (2) 例年、1月はいずれの地域も発生が増加する傾向にあり、中央部、中西部では現在より発生が増加し、西部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(西部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年より多く、中西部でやや多かった。発生程度は中央部で平年より高く、中西部でやや高く、西部で低かった。
- (2) 例年、1月は中西部、西部では気温の低下とともに減少し、中央部では12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、中西部、西部では減少し、中央部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、東部で発生が見られ、発生面積はやや多く、発病程度はやや低かった。
- (2) 例年、1月はいずれの地域でも12月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 1月の降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から、いずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：平年並(中央部、西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年並、東部で平年より少なかった。発病程度は、西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 例年、1月はいずれの地域も12月と同程度の発生が続く傾向にある。

- (3) 1月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)すすかび病

予 想 発生量：やや少(西部)、少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、西部で発生が見られ、発生面積は少なく、発病程度はやや高かった。
- (2) 例年、1月はいずれの地域も発生が増加する傾向にあり、西部では現在より発生が増加し、東部、中央部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 12月の調査では、東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は、両地域とも平年よりも低かった。
- (2) 例年、1月は気温の低下やタバコカスミカメなどの天敵の増加に伴い、いずれの地域も発生が減少する傾向にあることから、いずれの地域でも発生は減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

5)タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、やや多(東部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、東部でやや多く、中央部で平年並であった。発生程度は中央部で平年よりも高く、東部、西部では平年以下であった。
- (2) 例年、1月はいずれの地域も12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年並であった。発病程度は東部で高く、中央部、中西部で平年以下であった。
- (2) 例年、1月はいずれの地域でも12月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 1月の降水量は少ないと予想されていることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（東部）、平年並（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 例年、1月は中央部で発生が増加し、東部、中西部では12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、中央部では増加し、東部、中西部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部、中央部）、少（中西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中央部で平年より多く、中西部でやや少なかった。発病程度はいずれの地域も平年より高かった。
- (2) 例年、1月は東部、中央部では12月と同程度の発生が続き、中西部では減少する傾向にある。
- (3) 1月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から東部、中央部では現在の発生傾向が続き、中西部では減少すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、中央部で発生が見られ、発生面積、発生程度ともに平年並であった。
- (2) 1月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年、1月はいずれの地域でも12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、いずれの地域でも現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（東部、中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりやや多く、東部、中央部で平年並であった。発生程度は中西部で平年より高く、東部、中央部で平年以下であった。
- (2) 1月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年、1月はいずれの地域でも12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、いずれの地域でも現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年よりやや少なく、発病程度は平年より低かった。
- (2) 例年、1月以降発生が増加する傾向にあることから、増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年よりやや少なく、発病程度は平年よりやや低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年よりやや多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 1月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年、1月はいずれの地域でも12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、いずれの地域でも現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
- (2) 1月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年、1月はいずれの地域でも12月と同程度の発生が続く傾向にあることから、いずれの地域でも現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵や粘着トラップの利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.



高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)

